

平成18年1月1日
神付市民農園管理組合

謹賀新年

皆さんご家族お揃いで楽しいお正月をお迎えになられたことと存じます。
昨年は大変お世話になり誠に有難うございました。私たち3名で始めた貸農園、当初は皆さんに農園を気に入ってもらえるかなあ、うまく野菜ができるかなあなど不安いっぱいでしたが、おかげさまで野菜づくりは誰も上手につくられたし、交流館でも様々な語らいができ、楽しい農園になりました事に深く感謝いたします。今年には更にご満足いただける農園づくりに、皆さんと共に頑張っていきたいと思っております。皆さんにとって今年が幸せな年でありますように。 管理組合 岩田恪夫

ふるさと村がオープンして早10年、拡張につぐ拡張で今や500区画もほぼ満杯！休日には向かいの里山にも大勢の人が来られて山歩きする人、炭焼きに取り組む人。茶店棟では地元で採れた旬の食材を使った料理で腹ごしらえする人や、お茶を飲みながら気の合った仲間と畑談義する人々。さあーて日本一の農園目指して次ぎの一手は〜と……と遠くから「お雑煮出来たよ〜」で聞き覚えの声！なんや夢やったんか。明けましておめでとうございます、今年もよろしくお祈りいたします。 管理組合 辻井隆治

多くの方々に、支えられて、新しい年を迎えることができました。大沢コンパクトタウン研究会、ホームページ(<http://www.ozo.ne.jp>)、光山だより、学校歯科医、カウンセラー、教育研究会(よすが)、歯科医師会の同窓会、等いろいろなことに首を突っ込んでいます。何もできませんが、情報の伝達だけでもお役に立てていると思っています。ふるさと村にもいろいろな方がいらっしゃいますので、お話を聞かせてください。交流館、囲炉裏の出番です。

管理組合 岩田邦男

今年の主な予定

- 4月 バーベキュー大会
- 5月 夏野菜の栽培講習会
- 8月 秋野菜の栽培講習会
- 11月 収穫祭
- 12月 もちつき大会

お知らせ

※ 2月になりましたら18年度の契約の更新手続きをさせていただきます。

※ お正月も交流館(管理棟)の利用は出来ます。

※ 交流館の南側に竹炭など炭焼きのできる施設を1月中につくる予定です。

※ 冬でも農園周辺の里山で汗の流せる「神付ふるさと村物語」を計画しています。

この計画の推進は北神戸田園ボランティアネット代表佐藤由美子氏にお願いしていますが参加対象は農園の利用者です。参加をお待ちしています。

※



神付ふるさと村冬物語 2006

ふるさと村の
人たちが
おや
ふるさと村の
人たちが



冬の向みんなは
何をしているのかな



1月28日 森と焚き火

周辺の森林整備

2月12日 里山の恵み

しいたけのホダ木づくり

しいたけの
ホダ木は
入らない



薪でお料理
「地元の食材・大きなお鍋」



木がきれいになる。
ササもできるんだね

焚き火を
焼き芋大会



3月19日 みんなが出会う

しいたけ菌打ちと大きな焚き火

お知り合いの
参加もOK!



あき火でお料理
「ダッチオープンで作るピザ」



秋にはふるさと村
産のしいたけが
できるよ!!

参加費は
1人200円
時間は
10:00~13:00
お申し込みは
ふるさと村へ



「自分でつくる野菜の大切さについて」

前回お話ししたように、寒くなると野菜がおいしくなるのは、凍らないように糖分を増やしている為である。野菜は自然に生きる知恵を持っている。しかし、全ての野菜が寒くなると旨くなるわけではない。ハウス栽培の野菜は寒さに遭うことがないので味は変わらないことになる。ところが、最近は味覚障害の子供達が多いので、わずかな味の違いが判らない。ほとんどの家庭が出しの素や味の素で味噌汁を作っている。化学調味料は感激のない大人に育つということである。

コウノトリが絶滅しかけたので、繁殖させて現在118羽に増えて最近その内の5羽を放鳥した。餌は主に泥鰌で、成鳥は一日500g食べる。雛は10週で成鳥になるが、巣立ち前になると一日1500gの餌を食べる。しかし、親は巣立ち前に餌を運ばなくなる。すると雛はおなかから自分で飛び立って餌を獲るが、巣は20m以上の松の木の上であり、飛び立つのはかなりの勇気があるはずである。雛は餌をねだってピーピー鳴くが、時にいつまでも餌を運ぶ親鳥がいる。こんな親に育てられた雛は、自分で生きる力が弱いので、生存競争に勝てないことになる。生物は一定の年令までに、生活の術を教えないとうまく生きられないものである。

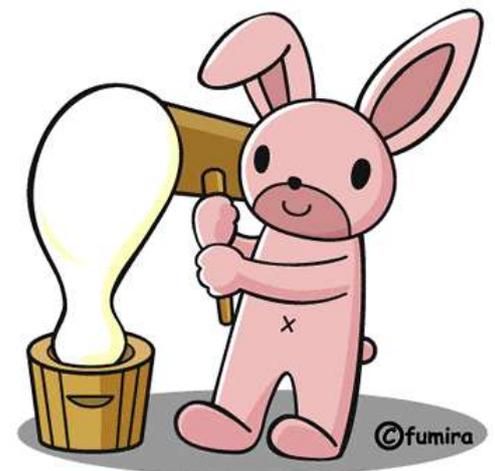
昔からの日本の伝統「七、五、三参り」は3歳まで生かしていただいたという感謝をし、5歳は男の子の袴付け、7歳は女の子の帯締め感謝の行事である。男は15歳で元服すると、男親の代わりとして認められることになっていた。これらのことは、一定の年令になって子供達が自覚する為の伝統行事である。最近ニートとかフリーターなど定職につかない若者が多いが、これはおばあちゃんや親がいつまでも小遣いを与えるからである。自分で生きる力を持っていない子供は、コウノトリと同じように生存競争に勝てないことになる。

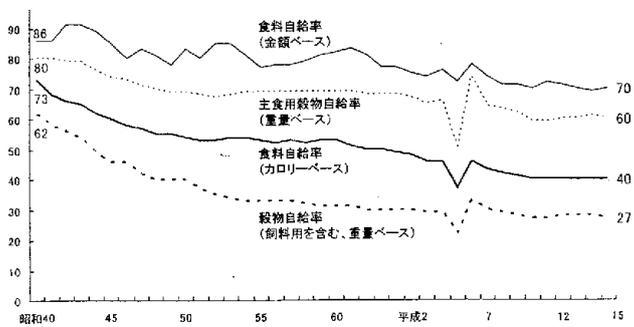
さて、配った資料を見てもらうと、日本の食料自給率が40%しかないことが判る。つまり、60%は主にアメリカに依存していることになる。骨の素になるリン酸カルシウムなどは食料の出来た土の成分であり、日本人の身体は日本人でありながら60%がアメリカの身体ということになる。つまり、今は食物をお金で買っているが、安ければどの食物でもよいということはないはずである。自給率は一年に1%ずつ低下しており、当然そのまま行けば40年先にはすべての食物が外国産になってしまう。現在、日本は経済大国なので、食物を買う金があるが、どんどん経済力が落ちているので将来の子供や孫が食べるものがないことになる。世界の欧米の先進国は自給率をしっかりと確保して上げている。日本と韓国は農業を粗末にする国風があり、子供達が農業をしなくなっているし、農業は劣った産業だと思っているがそうではないことを自覚するべきである。飢饉で大変と云われている北朝鮮でさえ、自給率は70%はあるはずである。食料の分配がうまくいっていないので、食べられない国民がいることになる。金がないので買えないだけだが、日本は金があるので結構栄養のよい人達もいるが将来の子供たちの為に食物の大切さを考えることである。その意味で、自分で畑を作って食物を自給するのは大切なことである。

身体は土の成分で出来ているわけだから、日本人は日本の土で生きるべきである。世界各国の自給率表を見ると格段に低いのが日本であり、食料不足で水没するとしたら最初に沈むのが日本となる。しかも、日本は島国であり、災害大国である。小泉政権は農業改革には無関心であるが、本来一番大切なことは、食料改革であろう。今朝、パンを食べた人も多いと思うが、パンは日本人の主食ではない。原料の小麦はアメリカのものである。フランス人はフランスパンを食べるが、フランスの麦はグルテンが少ないので、硬いパンになる。ドイツも質が良くない黒パンで、イギリスはグルテンの多い小麦で柔らかいパンになる。しかし、どの国も自分の国の麦で自給率を補っていて、食文化を定着させている。日本人の内、神戸市民が一番多くパンを食べている。3歳までにパンを食べることを教えると米を食べなくなる。日本人はアメリカの小麦を食べてアメリカの小麦畑を繁らせているが、米の出来る田圃に雑草を繁らせている。パンを食べると野菜を食べなくなる。菜っ葉を食べると米を食べることになる。しかしそんな野菜も最近は輸入が多い。玉葱、カボチャ、牛蒡などはいくらでも日本で出来るのに輸入している。安いからだが、その為に日本の畑がどんどん減っている。そうすると、日本の野菜から種が取れなくなっている。

今、種の80%は輸入になっているが、種を取る為には、雨の少ない気候が向いている。日本は雨の多い国なので、雨の少ない土地で取った種がうまく育たないので農薬がいることになる。昔は各農家で種を取っていたものである。兵庫の在来種保存会という会で、畑と技術と種を守る運動をしているので、参加していただきたい。

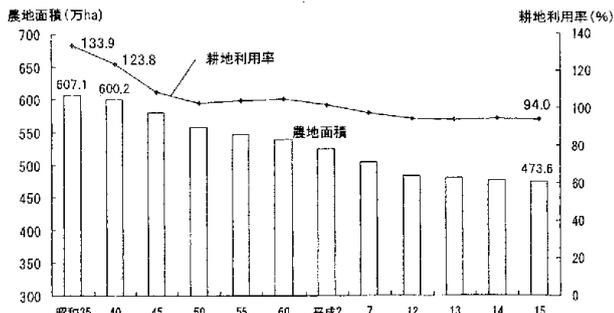
せっかく、ご縁があつて自分で食料を作っているわけだから、子孫の為に、このような考え方をしっかりと継承していくことが大切である。（森脇 泉 作成）



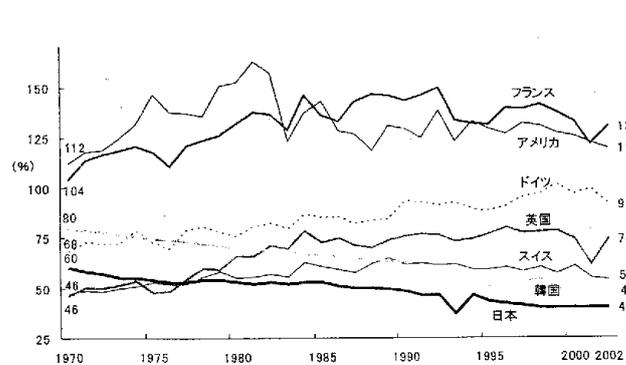


(資料) 農林水産省「食料供給表」

図2 農地面積及び耕地利用率の推移

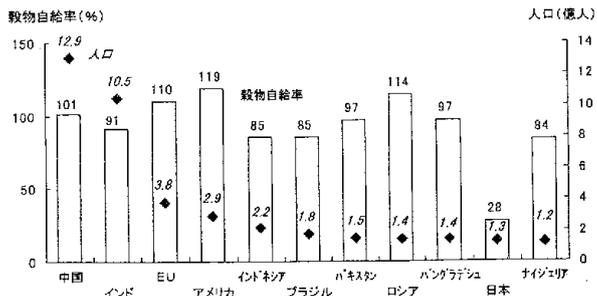


(資料) 農林水産省「耕地及び作付面積統計」



(資料) 日本以外の他の国についてはFAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算。ただし、韓国については、韓国農村経済研究院「Korean Food Balance Sheet 2001」による(1970, 1980, 1990及び1995~2001年)。

図4 人口1億人以上の主な国の穀物自給率(2002年)



(資料) FAO「FAOSTAT」

第1表 野菜の輸入状況

年	生鮮野菜		野菜加工品		うち冷凍野菜		合計	前年(同期)比
	前年(同期)比	数量(千トン)	前年(同期)比	数量(千トン)	前年(同期)比	数量(千トン)		
1991年	310	120	791	115	252	122	1,101	116
1992	286	92	636	106	252	100	1,121	102
1993	393	137	909	109	299	114	1,302	116
1994	652	166	1,010	111	354	118	1,682	128
1995	708	109	1,146	113	379	107	1,654	112
1996	630	99	1,174	102	405	107	1,804	97
1997	573	91	1,146	98	414	102	1,720	95
1998	740	129	1,217	106	456	113	1,957	114
1999	885	120	1,313	106	492	106	2,199	112
2000.1~9月	654	105	943	99	363	100	1,597	102

資料 財務省「貿易統計」

第3表

品名	輸入量		増加率		輸入先国別シェア(%)		
	1991年	94	97	94/97	97/94	米国	中国
生鮮野菜	311,844	679,976	802,218	218.1	86.6	37.3	21.8
たまねぎ	62,781	208,648	174,611	282.5	84.4	69.0	4.6
しょうが	101,030	156,763	153,685	153.1	86.5	3.5	—
ブロッコリー	21,441	72,171	71,811	333.6	99.5	98.0	0.1
しょうが	13,467	28,190	33,101	208.0	117.4	—	64.4
にんにく	3,545	10,342	23,373	282.2	245.3	0.4	59.1
アスパラガス	12,482	21,270	21,078	170.4	96.1	22.2	1.6
冷凍野菜	406,863	529,279	654,896	130.1	123.7	45.0	34.5
ピーマン	144,486	175,501	241,120	121.5	127.3	86.9	1.7
ピーマン	42,821	56,700	66,314	133.0	134.0	0.1	45.4
さといも	27,267	42,094	54,435	154.2	129.3	—	99.7
スイートコーン	36,577	43,612	52,139	119.4	115.0	80.5	—
金魚冷凍野菜	21,315	29,709	31,356	120.6	122.0	42.8	24.2
ほいれんそう	14,025	21,846	30,533	155.8	140.2	0.8	98.7
乾燥野菜	215,170	229,261	227,982	101.9	103.5	—	64.0
さやうり、ガーキン	60,190	64,457	60,476	107.1	93.8	0.6	67.8
こむぎ、らっきょう	15,842	22,614	21,094	135.3	93.3	—	91.8
乾燥野菜	28,731	44,241	49,801	148.8	112.6	12.2	80.7

出典 高橋正一郎編「野菜のフードシステム」
資料 野菜供給安定基金「1997年野菜輸入の動向」から作成
原資料 財務省「通関統計」

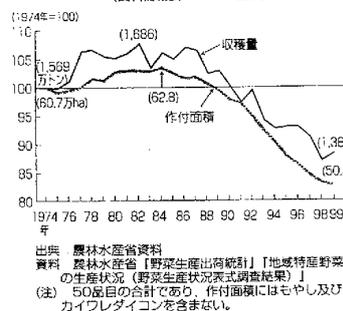
第2表 品目別の生鮮野菜輸入量の推移と主要輸入先国

品名	1996年					増加率(2000/1996)	2000年の主要輸入先国	
	1996	1997	1998	1999	2000		数量(千トン)	シェア(%)
たまねぎ	184	175	205	223	262	1.4	米国(169)	N.Z(53)
かぼちゃ	144	135	129	154	133	0.9	N.Z(91)	メキシコ(20)
こぼろ	—	—	—	72	82	—	中国(68)	台湾(13)
ブロッコリー	74	72	75	91	78	1.1	米国(68)	中国(10)
しょうが	31	33	30	34	46	1.5	中国(45)	タイ(2)
にんじん	30	13	34	50	44	1.4	中国(21)	N.Z(12)
ねぎ	9	8	18	30	42	4.6	中国(42)	台湾(0.3)
メロン	27	24	29	39	34	1.2	メキシコ(22)	台湾(11)
にんにく	24	25	27	26	29	1.2	中国(29)	アルゼンチン(0.1)
アスパラガス	22	21	20	24	25	1.1	台湾(6)	米国(5)
キャベツ	3	3	42	21	21	7.9	中国(20)	インドネシア(0.7)
さといも	14	15	14	20	21	1.5	中国(21)	タイ(0.1)
さといも	26	6	6	10	20	0.8	中国(20)	—
ピーマン	4	6	9	11	16	4.1	—	—
うちジャンボピーマン	—	—	—	—	10	—	オランダ(6)	台湾(2)
その他	—	—	—	—	6	—	韓国(5)	オランダ(0.8)
トマト	0.5	1	4	9	13	25.9	韓国(11)	米国(2)

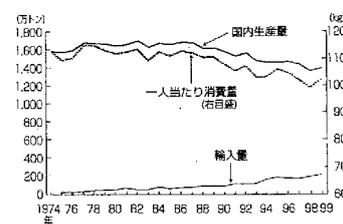
資料 財務省「貿易統計」

(注) 1. にんじんは、にんじん及びかぶの数字である。
2. ねぎは、リーキ及びねぎの数字である。
3. さといもは、1996年から欄が設けられた。
4. キャベツは、キャベツ等あぶらな菓の数字である。
5. ピーマンは、ジャンボピーマン、その他とうがらし属(ピーマン、ししとう)の数字である。
なお、ジャンボピーマンの分類は2000年から設けられた。

第1図 野菜の作付面積・収穫量の推移

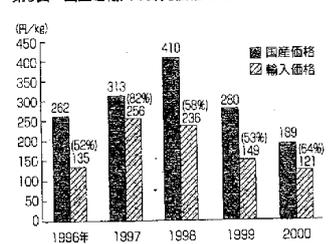


第2図 野菜の生産・消費の推移



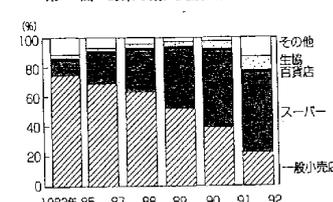
出典、資料、(注)とも第1図に同じ

第3図 国産と輸入の卸売価格の比較(白ねぎ、各12月)



出典 農林水産省資料
資料 全国主要都市の卸売市場月報等
(注) 輸入価格()の数字は、国産価格を100とした割合。

第4図 野菜の購入先別支出金額比率



出典 高橋正一郎編「野菜のフードシステム」
資料 農林水産省「全国消費実態調査」